

まず溝口先生の記事(HP上の資料)を見て、最初に感じたのは、行政は必ずしも必要でない場合も莫大な予算を使って除染をしているが、それは非効率ではあるが必ずしも現場無視とはいえず、全除染を希望するという心情を汲んだ結果であり、非難しきれないということである。報道などで知る限り、「またゼネコンとつながった無駄な公共事業と化しているんだろう」という感覚であったが、それとは違った。

だからと言ってじゃあ現在の除染が妥当かと問われれば疑問符が出てくる。農水省は自ら他のやり方も定めており、溝口先生の提唱するやり方も存在する。さらには時間や予算という点から考えればいつまでも除染をやっているわけにはいかず、なるべく早く福島の農業を「農業」として復興させる必要もある。

このような現状で、私今個人レベルでできることを考察したい。

まずは今できることを考えたい。別に特別な立場ではない私ができることは、一国民といしてできることや一消費者としてできることだとおもう。

そのうちでできる一つ目は、知識と正しく得ることである。報道の言うことも行政の言うことも、研究者の言うことも「間違っていない」のであろう。しかしじゃあ間違っていないのであればどれかの意見に乗っかっていけば絶対に間違いが起こらないということでもない。

だからこそ自分が納得できる、そして論理的な意見を持つことが、福島産の食べ物を購入する以前に、ボランティアをする以前に、報道を見る以前に、基本的で最低限のことだと思う。そのためには多種多様な意見を見聞きして、簡単に虚言を語らず意見を持つことが求められる。

2つ目は福島産のものを消費することである。ボランティアなどなかなかそうできるものではないし、今この時点での除染地域に素人のボランティアが本当に必要とされているか疑問である。だから実生活上でできることは福島産の産業を消費者として支えることが「できる」ことだと思う。

最後に私は法学部生であり、将来は行政に携わることを希望している。そこで、行政が農業再生にできること、行政に対して農業再生が求めていることは何であるかが問題であると思う。ただそれは「将来農業再生に関してできること」だと思う。